

令和5年度 宮崎県感染症対策連携協議会（第1回） 議事概要

日時：令和5年6月7日（水）18：00～19：00

場所：防災庁舎4階 43・44号室

○予防計画の変更について

（会員）

ワーキンググループのメンバーを教えてください。

（事務局）

既存の会議体の活用を考えており、新型コロナに係る入院受入対応の中心を担った外来感染対策向上加算1の医療機関の有志の先生方が主要メンバーとなっている。予防計画の策定にあたり、医療現場の状況などに関して、当グループから御意見をいただきたいと考えている。

（会員）

資料6の医療機関等向け事前調査の対象は約1700カ所とあるが、内訳を教えてください。

（事務局）

調査対象について、県内の病院と診療所が合計約900カ所、薬局が約600カ所、訪問看護ステーション約200カ所を予定している。

（会員）

備蓄に関する目標もあるが、何かしらの支援がなければ、備蓄物の保管や物品が消費期限切れになった場合など、医療機関の負担が大きくなるのではないか。

（事務局）

新型コロナの初期対応において、PPEが不足していたという情報もいただいている。備蓄については、新型インフルエンザ等対策行動計画に基づき、国や県が担うこととなっているが、感染症法の改正により、医療機関においてもできる限り2ヶ月分程度の備蓄が求められている。備蓄品目は、具体的に5つ示されており、8割以上の医療機関において、この5品目を2ヶ月分程度備蓄いただくことを目標としていくこととなる。備蓄費用については、国において予算措置も含めて現在検討していると伺っている。

(会員)

予防計画は基本的に新型コロナの対応に準じて作られているが、コロナとは全く違う新興感染症については、国から提供される情報を踏まえ、柔軟に対応するという認識でよいのか。

(事務局)

貴見のとおり、新型コロナ対応を念頭に計画を策定するが、当初の想定にない新興感染症が発生した場合には、国から提供される情報も踏まえ、随時対応を検討させていただきたい。

(会員)

新型コロナの発生初期は、感染症指定医療機関にて対応を行った。感染症の発生初期においては、ウイルスの病原性も分からず、手探りでの対応となるため後方支援の目標を設定することは難しいのではないかと。今後、各医療機関が役割を担う上で、医療機関への丁寧な説明等をお願いしたい。

(会員)

今年度はあくまでも目標値を設定するものと考えており、計画に沿って施策に取り組んでいく上で、必要があれば軌道修正するなど、実情を踏まえ柔軟に対応していくものと考えている。

(会員)

新興感染症が発生した場合、最初は社会人からウイルスが持ち込まれ、同僚、家族、学校と広がっていくことが想定される。感染症が大きく流行する際には、学校の影響も少なくないため、当協議会において、会員以外の有識者として学校関係者を出席させることを検討してほしい。

(事務局)

当協議会では、医療提供体制の確保を中心に協議していくため、会員以外の有識者としては、高齢者施設の関係者等を想定していたところであり、御意見については参考にさせていただく。

(会員)

様々な新興感染症が考えられるため、ある程度想定できる感染症については、それぞれの対応を計画に盛り込んでおかなければ、実際の対応が難しいと思う。

(事務局)

いただいた意見も参考に、国の方針を踏まえながら作業を進めてまいりたい。

○その他

(会員)

新型コロナワクチンの6回目接種が始まった。当初、宮崎市より、国からの供給数が限られていることから、医療機関ごとに配分の上限があるという通知が来ていたため、より効率的な接種に努めてきた。しかし、先日、市から配分上限がなくなったという連絡があったが、こういった経緯があったのか教えていただきたい。

(事務局)

ファイザー社ワクチンについては、追加供給は行わないという国の方針が示されていたが、先日、急遽追加供給を行うという連絡が入り、その旨を市町村へも周知したところである。

(会員)

ファイザー社のワクチンについて、3月、4月は在庫以上の供給は行わないと国から通知が来ていたため、医療機関の接種実績に応じ在庫を配分したところである。しかし、急遽、国から追加供給の連絡があり、改めて医療機関へ連絡した次第である。大変御迷惑をおかけしているが、御理解、御協力をお願いしたい。

(会員)

新型コロナにおける定点把握は機能しているのか。

(事務局)

新型コロナの第8波においては、定点当たりの報告数と、直近1週間の人口10万人当たりの新規感染者数が相関しており、現時点においても定点把握により感染動向は把握できていると考えている。

(会員)

第8波においては、地域に感染が入り込んでいる状態であり、このような段階であれば、学校にまで感染が及んでいるため、小児科定点が重視されても感染動向の把握はできると思う。新興感染症については、地域をまたいだ移動の多い社会人から感染が広がることが想定されるため、内科定点を重視していく必要があると思う。

(会員)

延岡市医師会は独自で、延岡市内のおよそ8割の医療機関から、コロナ患者数の報告を受けている。現在、延岡市では40代の感染が多くなっている。県における定点把握の年代別割合では小児の割合が多くなっているが、小児科定点が多いため小児の割合が多くなっているのではないだろうか。内科定点を増やすなどの検討をお願いしたい。

(事務局)

新興感染症が発生した場合は、新型コロナウイルスの発生初期同様、全数把握になるかと思う。定点医療機関については、国の方針を踏まえ設定しており、現時点では、感染動向は概ね把握できていると考えているが、今後、必要に応じて検討していきたい。

(会員)

新型コロナウイルスについては、5類感染症への移行に伴い、検査を必ずしも受けない方もいるため、感染動向の把握が難しくなっていると思う。重症者数等の状況も踏まえ、感染動向を把握していく必要がある。

(事務局)

重症者数等の入院状況については、G-MISを用いて随時確認しているところである。なお、本日時点では入院患者数は48名であり、先週の47名と比べても、現時点では横ばいの状況にある。

(会長)

新型コロナウイルスの5類感染症への移行という一つの節目を迎え、今後は新たな感染症危機に備えるため、関係機関と随時連携を図っていくことが重要だと考えている。引き続き御協力をよろしくをお願いしたい。